

おうちの  
みんなで  
読んでね

## 『その一人は親鸞なり』

親鸞聖人は晩年、お弟子さんに宛てた手紙の中で「浄土にてかならずかならずまちまいらせ候べし」と記され、聖人最期のお言葉とされる『御臨末の御書』には「一人居て喜ばは二人と思ふべし、二人居て喜ばは三人と思ふべし、その一人は親鸞なり」と述べられています。

この二つのお言葉からいただけるお心は、「この私を浄土で必ず待っていてくださる」という暖かさであり、今一つは「待ってなどおれぬから、常にこの私の側に帰ってきてくださり、寄り添い続けてくださる」嬉しさであります。

親鸞聖人が使われた「浄土真宗」とは、お師匠様である法然聖人が明らかにされた選択本願、すなわち阿弥陀仏による真実の衆生救済という意味であって、この喜びの中には二つのお味わいが込められているのです。

その一つは、「誰もが浄土に生まれさせていただき、間違いなく弥陀同体の悟りを開かせていただくのが真実のお救い」ということ。「待っていてくださる」処へ生まれさせていただける喜びであり、うれしさであります。「帰る処があり、待っていてくれる人がいる」ことほど、暖かく和やかなことはありません。

さらに大事なことは、浄土から来てくださって、今この私に届いてくださり、私の思いや日暮しがどれほど荒もうとも、「間違いなく仏の世界へ連れてゆくから安心してまかせなさい」と働き続けているということでもあります。



「あの世」は気の無限のプール（空）。膨大な気が集まって物質化し（色）、一人の命が現存するようになる。40代の肝臓から次第に気が解散していき、気のプールに帰ることが死である。

\*中国古典・老荘思想から引用して紹介して下さったのは、気功指導の大家・津村喬先生だった。71歳で急逝されて早三ヶ月余り。仏教や現代社会にも通じる多くのことを語られた。

気聚則生 気散則死  
きがあつまればすなわちせい  
きがさんずればすなわちし  
(莊子)

すなわち、「浄土へ」と「浄土から」という二つの姿をいただけるのが、浄土真宗の喜びなのです。真実の救いをお念仏に見出された親鸞様の言葉に、限らない御恩を噛み締めていきたいものであります。（参照「季刊せいてん」）

拝まない者も

おがまれている

拝まないときも

おがまれている

◆教育者でもあった東井師の最晩年の詩集から。豊岡市の東光寺に生まれ、幼い時に母との死別、貧窮による進学断念、時代の動きの中での苦惱、師の言葉には阿弥陀様へのご恩と同時に、深い人生体験も語られています。

自叙伝の中で「後年ずいぶん仏

に背くような思想を追い求めた私であるが」と告白され、それでも「背き切ることができなかった」のは、「母が仏前に座してお勤めする傍で、母を真似て『きみよーむりよーじゅによらいー』と唱和しながら見上げる時の、母のなんともいえぬ嬉しそうな微笑は、今も鮮やかに私の眼前にある」という母の微笑を「仏の微笑の中に見て頭が上がりなかつた」と述べられます。仏様や教えに対する懐疑が、決定的な決別に至らなかつたのは、幼少時における母との記憶の故であった。これは宗教の本質の一端を雄弁に物語っているのではないのでしょうか。

表題の言葉は、「無理をせんと休んでいてください」と腰の曲がつた老妻に氣遣われ、土手の草を刈りながら「何だかかうれしく、何だかしあわせで。」の詩の後に続く言葉です。拝むは私たちの行為、おがむは仏様の働き、仏様は大いなる働きの中にこの私を包み込んでいることを表します。師は妻の声の上に、また生涯通して出会った全ての人々が、大いなる働きを知らせてくれていると味わうのです。拝んでいない時の私も、いまだ拝むことすら知らない人も、廣大無辺な阿弥陀様の働きの真ん中にあるのでしょうか。(引用「月々の言葉」)

教えて、お坊さん ②④

死んだら無になるだけだし、うちも家族葬でいいんです

秋に入ってやはり葬儀は「近親者のみ」が多く、会場側も僧侶も手探りな対応が続く。しかし実態は様々で、福井でも廃業や雇い止めに見舞われた影響とみられる孤独死がそこそこあると聞いたりする(夏場はキツイとか)。身寄りもなく経済的な困窮が孤立を深め、読経も、お骨の行き先もない見送りとなりかねない。

実はそうした傾向は、特に都会では著しく、コロナ以前からの核家族化、急速な都市集中、格差拡大などが背景にある。戦後世代が八割以上となり、大正生まれの方のように何に際しても自然と手を合わせお念仏がこぼれるような人は皆無に等しい。現代日本で、死生観や命のよりどころを見失っているとしたら、そこには僧侶側にも大きな責任がある。

死を悼む「弔う」には、垂れて来た蔓の根元へたどるという由来から、「訪ねる」という字義がある。死んだ後を考えず生に集中する、好きなように生きる、というのはある意味正しく、もし執着や悔いを残さず生き切れるとしたら素敵だ。だがたいていは悩み苦しみ抱え、死に怯え、また高年になっても死について考えはじめない方もおられるようだ。

死を迎える際の「物語」が求められることは数々の宗教が示す。神や仏たちと出会い、前に生まれん者は後を導き、後に生まれん者は前をとぶらえ(道綽禅師)と、残されたものは死者という存在として亡き人と出会い直す。葬送儀礼はかつて村落の相互扶助で営まれ(その功罪あるとしても)、喪主家の精神的負担を癒してきた面も心しておきたい。

## あ あなたの人生に起こっていないからといって、それが起きていない、 ということではありません。(女子プロテニス選手 大坂なおみ)

■全米オープン9月12日、無観客のスタジアム。静寂の18秒。「多くの偉大な選手が倒れ込んで見上げるのを見てきたから、どんな景色が見えるのかと思って。本当に素晴らしい瞬間だった」

優勝を決めたコートで仰向けになり、見つめた空には不当な暴力で命を落とした数々の黒人犠牲者の顔が浮かんでいたのかもしれない。4大会3勝目。

心は折れなかった。元世界1位のアザレンカとの決勝。全米の女子シングルス決勝で第1セットを失っての逆転は26年ぶり。

もちろん勝因は精神面だけではない。新しいコーチやトレーナーらと約10週間の合宿を実施。体幹と下半身を重点的に強化した。

父が貧困国ハイチ出身、母が北海道生まれ。3歳で米国移住したマイノリティーの立場が人権意識の原点だ。新型コロナウイルスの感染拡大でツアー大会が中止・延期期間中、大坂の心に大きな変化が生じた。「シャイでいるのはもう終わり」

5月25日警察官に膝で首を押さえつけられ「息ができない」とうめいたジョージ・フロイドさんの動画に衝撃を受けた。ボーイフレンドと事件が起きたミネアポリスのデモに参加。追悼式にも出席した。

人種差別へ抗議を示す使命を自らに課し、前哨戦では人種差別に抗議の「ブラック・ライブズ・マター (BLM)」のTシャツを着て会場に入った。

そして本戦決勝までの試合数に合わせ7枚の黒人被害者の名前入りマスクを用意。

初戦後に「皆に全てを見てもらいたい」と宣言し、見事に有言実行した。

大会中に被害者家族から受け取った感謝のビデオメッセージには涙堪えるのがやっとなったという。

「テニスは大多数が白人のスポーツ。自分が代表者のように感じている。負けてはいけないように感じる時もある。でもそれはとても大きな誇りの源」



優勝インタビューで「どんなメッセージを伝えたかったか？」と問われると「どんなメッセージを受け取りましたか？」と逆質問。

「アスリートは政治に関わるべきでない」との批判には「これは人権問題だ」と反論。「自分を表現することを恐れない。新しい発見や出会いがあって前とは違う人間になれた」「私はアスリートである前に黒人女性。私のプレーを見てもらうよりもっと注目すべき重要なことがある」(出典：<https://gotheweb.jp/person/slug-n385b234acdc> ほか)

\*死者が力を貸してくれるとはこういうことだろうか。決勝戦のマスクにはタミル・ライスの名。14年に射殺された当時12歳の少年。模造銃を手に歩いていたところ、急停止してきたパトカーの警官に打たれた。

\*表題のコメントは無関心への危機感を表明したもの。国際舞台で活躍する現場から、それほど根深い構造が現存していることを島国にも知らせてくれる。そして、この生はたまたまご縁で与えられたにすぎないという、仏法的自己認識にも通じている。

## 見方を変えれば～あるユニークな介護研修から

◆介護業界はとても研修が多い業界です。私も数え切れないほどの研修を受けてきましたが、中でもユニークな忘れられない研修があります。その研修の中では以下の問題が出されました（実際は10問ほどあり、5分ほどで全部回答しなくてはなりません）。

<問題>以下の事柄について、すべていい面に転換してください。

- 1) ほとんど話をしない、してくれない
- 2) ずっと家に引きこもっている
- 3) 人をうらやむ、ひがむ
- 4) 万引きをした

さて、答えは何通りもありますし、人によっても全く異なります。どなたかと一緒に考え合ってみてくださいね。私は時間も足りず、4の設問には「手先を使うスピードが速いんですね！」などと書きました。

ケアマネージャーや介護士は衰えて出来なくなったことに目を向けるのではなく、今出来ることに目を向け、どうしたらそれが生かして生活できるのか、を考える力が必要です。

また、一見マイナス面に見えることも、違う面から捉えプラス面を見出す頭の柔らかさも求められます。一例ですが、

- ・家のトイレまで歩けんようになってしてもた→「まだ立ち上がって二三歩歩けますね」
- ・グループホームであれこれ要求が多くなってきた→「ホームに慣れ、安心して地が出せるようになったね」

私はこの研修を受けてから 仕事の時だけでなく日常生活の中でも、物事を反対から、または他の人の側で見てみるということをやってみようになりました。いつもうまく転換できるとは限りませんが、「いやだな」と否定したくなる気持ちが多少なりとも減るような気がします。(C)



### イベント情報



10月11日(日)  
8時半～12時

えち鉄・勝山駅集合～竹原駅  
対象：親子(小5年生以上～)  
または大人(～60歳位)  
\*他に森の音楽会、森のヨガ  
体験(9/27,六呂師)もあり

自転車で早秋の勝山く永平寺を巡ろう  
ガイド付きサイクリングツアー  
モニター大募集! 参加費千円!

\*詳細は奥越前まんまるサイト(ノーム自然環境教育事務所)0779-67-1117・manmarusaito@goo.jpまで

▼あつという間に涼しくなった秋彼岸です。新型コロナに遭われた方にはお見舞い申し上げます。日本では欧米より二桁も感染者・死者数は少ないですが、何が原因か定説はありません。イタリアなどは経済再建は生き残ったものがなんとかする、というスタンスらしく、過剰に怯えては心身に不調をきたしかねません。生活を閉じすぎぬよう冷静に対応したいですね(S)

\*新型コロナの影響も含め、法事や葬儀に関してのご相談を頂戴しています。様々なご不安や疑問などぜひお聞かせください。

住職 林 暁 090-19765-1343